

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和4年3月31日

職員 7人 事業所名 コロニー児童デイサービスまえた(発達支援)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7			
	2	職員の配置数は適切である	7		職員の急な休み等で予定より不足する日には、普段以上に職員間の連携や臨機応変な対応を心がけている。	国の基準に沿って適切に職員を配置しているが、個別的なサポートを必要としている児童に対して、更に支援内容を充実させていくためには、豊富な職員体制が必要となる。経営状況を踏まえながら、適正化を図る。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	3	・活動内容によって使用するフロアを分けて活動しやすいよう工夫している。 ・事業所入り口が階段になっているため、手すりを両サイドに取り付け、必要な児童には手つなぎをして、昇降しやすいようサポートしている。	・活動内容や児童数、職員体制を考慮したフロアの使い分けを工夫する。 ・事業所入り口の階段往復時の転倒や踏み外しが無いようサポートする。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7		コロナ禍でもあるため、日々の清掃、消毒、整理整頓は徹底して取り組んでいる。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	2		
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	2		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	1	コロナ禍の影響により、全体研修の実施が難しい状況のため、オンラインを活用した研修の実施や、職員同士で気づきや疑問点をテーマに話し合う等の機会を通して学習している。	コロナ禍により従来の形態による研修機会の減少を補うため、オンライン等を活用した研修機会を確保する。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7		契約時や支援計画の更新時にアセスメントを実施し、ニーズや課題の分析を行っている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7			
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7		ご家庭や併用事業所、通所している保育園等での児童の状況も把握した上で設定するよう心がけている。	児童の「できること」「頑張ること」を見極めながら、焦らずに児童の力を引き出せるような支援を心がけて設定する。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7		児童一人ひとりに応じた支援ができるよう情報を共有している。	活動プログラムは、支援計画に沿った内容を考慮して実施しているが、日々の児童の状況や体調を優先する事が必要な場合もあるため、状況に調和した支援を実施していく。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	7			
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		・前月に翌月のプログラム、行事等を検討するようにしている。 ・日替わりで主となる職員(リーダー)の進行に任せて活動プログラムを実践するようしており、そうする事で、全職員に実践を創意工夫して実施する機会を作っている。	当日のリーダーが、前日までにしっかり活動内容や必要物品等の確認を行い、児童、職員がスムーズに活動に取り組めるよう、一人ひとりが意識して月間プログラムを確認する。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		朝礼でその日の担当や連携事項、個別情報の確認及び情報共有を行っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7		・毎日会議を行っているわけではないが、気づき等を伝え合うよう心がけている。 ・当日に振り返りができない時には、翌日などで早めに伝えるように心がけている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7			
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7			
21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7				
22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7		児童が併用している事業所等との連携を深めるようにしている。	コロナ禍での連携の在り方について、十分な連携が取れるよう、様々な機器の活用や連携方法を模索していく。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		7		※現在、医療的ケア対象児童登録無し
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		7		※現在、医療的ケア対象児童登録無し
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7			管理者が中心に行っている。会議で得られた支援に関する情報等は共有。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7			管理者が中心に行っている。会議で得られた支援に関する情報等は共有。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	2	助言や情報共有はあるが、コロナのため研修が実施できていない。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		7	以前は、児童館を活用し活動の機会を作っていた。	コロナ禍により活動機会を作ることが難しいため、終息後に計画していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	5		・会議へは管理者が参加。 ・これまで自立支援協議会参加の機会がない。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		・登所時にはこまめに保護者と情報交換するよう心がけている。 ・連絡帳を活用し、保護者と連携を深めることや、保護者からの連絡は職員間で情報共有している。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		7		コロナ感染症の為、実施できない状況が続いている。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	6		コロナ感染拡大防止の観点から実施できていない。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7		相談や申し入れがあった時には、職員間で共有し、管理者が対応している。	相談等には、職員間で情報共有し管理者が対応する。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		毎月の子どもたちの様子や行事等を事業所日より発行している。	デイでの子どもたちの様子が少しでもご家庭へ伝えられるような写真掲載や情報発信をする。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	7			
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		・しっかり児童と向き合い指示出しや声かけを実施している。 ・物の名前や色、形、形容詞、動詞などしっかりと言葉で表現し伝える事を心がけている。	
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	6		コロナ禍により活動機会を作ることが難しいため、終息後に計画していく。
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7		緊急時対応マニュアルや感染症対応マニュアルは策定し周知している。	防犯マニュアルについては、日々、検討や更新が必要なため、周知徹底できるよう整えていく。
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7		火災、地震避難訓練の実施。曜日を変え、一人でも多くの児童が参加できるようにしている。	避難用バギーは普段は使用する機会が無いため、災害時に迅速に使用できるよう、避難訓練時以外でも操作方法を確認しておく。
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	1	アセスメント時や日々の保護者との連携の中で状況を把握するようにしている。	てんかん発作については、事業所で起きた時に適切に対応できるよう、本児にあった状況や対応方法を保護者等と日頃より状況確認しておく。
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7		・お弁当持参の依頼、おやつ時は、アレルギーが含まれていないかを職員で複数回チェックし提供。 ・おやつ保管棚に、児童のアレルギーや利用日を記載し貼り付け。	登録児童全員が、契約時にアレルギー検査実施ではないので、給食やおやつ提供時には、子どもたちの様子をしっかりと観察することが必要（発疹や、臉の腫れ、かゆみ、呼吸等）
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		いつでも閲覧できるようファイルして保管。	事故、ヒヤリハットが発生したら、全職員が目を通し、発生事項に関して話し合いをする。
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		開催時には必ず参加している。	研修資料は全職員がいつでも見れるようファイルしている。研修での演習項目から事業所でもできそうな内容を全職員で研修している。
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	2	5		やむを得ず身体拘束をする児童は居ないが、身体拘束についての情報を職員間で共有する。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。